

高校世界史プリント（過去問類似）

近世（結びつく世界） No.2

名前

得点

/10

問1 17世紀初頭、アジアにおける香料貿易の独占を狙うオランダは、ジャワ島西部に東インド会社の本部を置き、東南アジアにおける植民地支配の拠点となる都市を建設した。現在のインドネシアの首都ジャカルタの旧称にあたる、この都市はどこか。

（2022年 全国公立入試 類似）

1. マカッサル 2. バタヴィア 3. アンボイナ 4. パレンバン

問2 17世紀前半にドイツを中心に勃発した宗教戦争において、カトリック側の神聖ローマ皇帝に雇われ、私兵を率いてプロテスタント側の勢力と戦った、ボヘミア出身の傭兵隊長は誰か。

（2015年 全国公立入試 類似）

1. ティリー 2. トルステンソン 3. ヴァレンシュタイン 4. マンスフェルト

問3 16世紀以降、カリブ海地域や南米のスペイン植民地では、過酷な労働や感染症によって先住民の人口が激減した。このため、代替の労働力としてアフリカから大量に連行され、プランテーションや鉱山で酷使された人々を何というか。

（2008年 全国公立入試 類似）

類似）

1. 契約移民 2. 債務奴隷 3. 黒人奴隷 4. 年季奉公

問4 17世紀初頭、明の東北地方において女真（満洲）の諸部族を統一し、のちに清へと発展する国家を建国した人物は誰か。

（2025年 全国公立入試 類似）

年 全国公立入試 類似）

1. ヌルハチ 2. アグダ 3. ドルゴン 4. ホンタイジ

問5 16世紀の東南アジアにおいて、パガン朝の滅亡後に生じた分裂状態を解消してビルマ（ミャンマー）を再統一し、隣国のタイに存在したアユタヤ王国と激しい抗争を展開した王朝は何か。

（2004年 全国公立入試 類似）

1. トウングー朝 2. コンバウン朝 3. ランサーン朝 4. スコータイ朝

問6 15世紀末から16世紀にかけて、ポルトガルはアジアへの香辛料ルートを確保するため、アフリカ南端を經由する航路の開拓を進めた。ヴァスコ・ダ・ガマの成功に続き、インドへ派遣された船団の司令官でありながら、航行中に大西洋を大きく西へと迂回した結果、1500年に南米大陸の東部に漂着し、そこを自国の領有と宣言して後の植民地支配の端緒を開いた航海者は誰か。

（2007年 全国公立入試 類似）

1. カボット 2. ディアス 3. カブラル 4. マゼラン

問7 16世紀末から17世紀初頭にかけて、都をイスファハーンに移して「イスファハーンは世界の半分」と称されるほどの繁栄をもたらし、イギリスと結んでポルトガルからホルムズ島を奪回するなど、サファヴィー朝の全盛期を築いた君主は誰か。

（2025年 全国公立入試 類似）

全国公立入試 類似）

1. ムスタファ1世 2. アッパース2世 3. アッパース1世 4. スレイマン1世

問8 17世紀のイギリスにおいて、ジェントリ出身の指導者が率いる独立派が、王党派を破って国王を処刑し、一時的に君主政を廃止して共和政を樹立する契機となった一連の市民革命を何というか。

（2004年 全国公立入試 類似）

1. ベルギー革命 2. ギリシア革命 3. フランス革命 4. ピューリタン革命

問9 18世紀半ば、オーストリアのハプスブルク家はプロイセンから領土を奪回するため、長年敵対関係にあったブルボン家のフランスと同盟を結んだ。この国際関係の劇的な転換を何と呼ぶか。

（2013年 全国公立入試 類似）

1. 三国同盟 2. 外交革命 3. 神聖同盟 4. 三帝同盟

問10 17世紀後半から18世紀初頭にかけてのムガル帝国において、それまでの宗教的融和策を改めて厳格なスンナ派のイスラーム化政策を推進し、非ムスリムへのジズヤ（人頭税）を復活させたことで、シク教徒やマラーターなどの反乱を招き、帝国の衰退の契機を作った第6代皇帝は誰か。

（2016年 全国公立入試 類似）

1. ジャハーンギール 2. シャー・ジャハーン 3. バハードゥル・シャー 4. アウラングゼーブ

答え合わせ・解説 No.2

問1	答え 2 バタヴィア	オランダは17世紀初頭に東インド会社を設立し、アジア貿易への本格的な進出を開始した。1619年、ジャワ島西部のジャカトラを占領してバタヴィアと改称し、ここに東インド会社の本部を建設した。バタヴィアは、香料貿易の独占や、イギリスなどの競合勢力を排除するための軍事・商業的拠点として機能し、のちのオランダ領東インドの首都となった。第二次世界大戦後にインドネシアが独立を宣言すると、名称はジャカルタに戻された。
問2	答え 3 ヴァレンシュタイン	三十年戦争において、神聖ローマ皇帝フェルディナント2世に雇われたヴァレンシュタインは、自費で集めた傭兵団を率いてプロテスタント軍を圧倒した。しかし、その強大な軍事力と野心を皇帝や諸侯に警戒され、後に暗殺された。
問3	答え 3 黒人奴隷	スペイン領アメリカ植民地では、ポトシ銀山などの鉱山開発やサトウキビなどのプランテーション経営が行われたが、過酷な労働やヨーロッパから持ち込まれた感染症により、先住民（インディオ）の人口が激減した。この深刻な労働力不足を補うため、アフリカから大西洋奴隷貿易を通じて多くの人々が強制連行され、過酷な労働に従事させられた。なお、オランダがジャワ島で導入した強制栽培制度や、イギリスがインドで実施したザミンダール制などは、異なる時代・地域の労働・徴税制度である。
問4	答え 1 ヌルハチ	17世紀初頭の1616年、女真（満洲）の指導者であるヌルハチは諸部族を統一して後金を建国した。彼は八旗と呼ばれる軍事・行政制度を創始し、満洲文字を制定するなどして、のちの清朝の基礎を築いた。
問5	答え 1 トウングー朝	16世紀前半にビルマ（ミャンマー）中部のタウングー地方から興ったこの王朝は、周辺勢力を破ってビルマを統一した。その後、隣国タイのアユタヤ王国へ遠征を行い、一時その首都を占領するなど、東南アジア大陸部において強大な勢力を誇った。18世紀にモン人の反乱などによって滅亡した。
問6	答え 3 カブラル	1500年、ポルトガル王の命を受けてインドへと向かったカブラルは、アフリカ西岸の風や海流を避けるために大西洋を大きく西寄りに航行した。その結果、南米大陸の東端（現在のブラジル）に漂着し、1494年に締結されたトルデシヤス条約の境界線に基づき、この地をポルトガル領と宣言した。これにより、ポルトガルによるブラジル植民地化の歴史が始まることとなった。
問7	答え 3 アッパース1世	サファヴィー朝の第5代シャーであるこの君主は、軍制改革を行って常備軍を整備し、オスマン帝国から領土を奪還した。また、都をイスファハーンに遷都して壮麗な都市を建設し、外交や交易を活発化させて王朝の全盛期を現出した。
問8	答え 4 ピューリタン革命	チャールズ1世の専制政治に対して議会派が反発し、内戦へと発展した。ジェントリ出身の指導者が率いる鉄騎隊の活躍などにより議会派が勝利し、国王の処刑と共和政の樹立に至った。この一連の変革は、清教徒（ピューリタン）が中心的な役割を果たしたことからこの名で呼ばれる。
問9	答え 2 外交革命	オーストリア継承戦争でプロイセンに領土を奪われたマリア＝テレジアは、その奪回を目指し、宿敵であったフランス（ブルボン家）と同盟を結んだ。これを外交革命と呼ぶ。これにより、従来の「ハプスブルク家対ブルボン家」というヨーロッパの対立構図が崩壊し、イギリス・プロイセン対フランス・オーストリアという新たな対立構図が生まれた。
問10	答え 4 アウラングゼーブ	アウラングゼーブは、アクバル以来の融和政策を破棄して厳格なイスラーム化政策を行い、1679年にジズヤを復活させた。これにより、ヒन्दゥー教徒のマラーターや、バンジャール地方のシク教徒などの激しい反乱を招き、帝国の財政悪化と衰退をもたらした。